

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602496
法人名	有限会社 モク・コーポレーション
事業所名	グループホーム銀の庵 (ユニット名)
所在地	福岡県久留米市国分町1571-8
自己評価作成日	令和4年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅街の中にあり、1ユニット9名様の入居様がゆったりとした時間の中で生活しておられます。リビングを中心に居室がありどこにいても安心して過ごすことができるような作りになっています。その人らしさ大切に、なじみの環境を大事にし、老後の生活を豊かに幸せに過ごして頂けるように支援を行なっています。症状が悪化しても不安なく過ごせるように主治医、訪問看護を中心に法人全体で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路が徒歩圏内にあり、住宅街の中で商業施設も近い。敷地が広く、四季の草花が植えられており、駐車場も十分に確保されている。建物は木を基調にした外観で、内部も木材が多く使用され利用者が落ちついて生活ができる空間となっている。また、地中熱利用換気システムや太陽光の蓄電施設を利用し、災害時に対応ができる仕組みになっている。職員は、その人らしい生活を支援し、外国からの就業の職員も生き生きと働きながら利用者の支援ができています。コロナ禍でも地域の支援が継続できているのは、これまでの地域に溶け込み支えてもらえる関係性を保つ努力をしてきていることの表れであり、法人の支援体制ができているからである。今後も地域の福祉事業所としての役割が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との連携を図り、なじみの環境を大切にし、その人らしさを大事にしていく為の支援を心掛けている。	理念は職員が自筆で記載したものを、玄関や職員のロッカー室に掲示し把握している。その人らしさを基本にサービスの実践を行っている。毎月のケア会議の際も理念に基づいて支援をしているかを話し合い確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、地域の方々と一緒に行事に参加したり、ごみ当番等の協力行っている。	自治会のごみ当番は職員が参加している。大家さん（敷地所有者）がパイプ役として、地域の方々との交流を重ねてきており、顔なじみの方が自宅で育てた花の差し入れが続いている。感染状況が落ち着いたら、地域活動への利用者参加やコーラスのボランティア等の訪問の再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会にも参加し、運営推進会議を2か月に1回開催し、事業所の理解や認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の生活状況や行事、事故報告、ヒヤリハットの報告を行い、話し合いの中での意見をサービス向上に取り入れている。入居者代表の方にも参加して頂き、実際の状況を話しをしてもらっている。	民生委員・自治会役員・利用者・行政・地域包括支援センターの参加で2ヶ月毎に開催していたが、今年に入りコロナ禍で開催が困難になり、文書で報告している。4月から開催予定である。利用者の状況やケア内容を報告し、助言を受けたことを毎月の職員会議の際に報告しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からのメールや情報収集を密にし、会議や勉強会に参加するよう心掛け、サービスの質の向上に役立てています。	運営推進会議に、毎回行政の担当者や地域包括支援センターの参加がある。その際に事業所の取り組みやサービス内容を伝えている。行政からの情報メールや、空室情報の照会等情報交換も常にできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化の為の学習会を開き、職員一人一人が十分に理解出来るように取り組んでいる。基本的には身体拘束をしていないが、介護の状況により、玄関に施錠する場合もある。	毎月の職員会議の際に、学習会を行い身体拘束をしていないかを検討し、サービスの見直しを行っている。日頃職員間で声掛け修正をすることが出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法についての学習会に参加し、学ぶことにより事業所内での虐待がないように十分に注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、成年後見制度や日常生活自立支援についての学習会に参加し、理解を深めている。必要時すぐに活用できるように資料を準備している。入居時に説明し、資料も渡している。	法人の研修が年に1回あり、研修を受けた管理者が職員へ伝達研修を行っている。現在は権利擁護に関する制度を活用する利用者はおらず、必要時は利用者・家族への資料準備があり、説明できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、ご家族様に契約書、重要事項説明書等を読み上げ、十分な説明を行っている。又、その際質問や疑問があれば説明をし、理解、納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、意見を記入して入れる人は、ほとんどない。入居者様と職員は、日頃より話しやすい状況を保ち、意見、要望等を聞き、運営に活用している。ご家族の面会時に不満や希望があれば、しっかりと把握し、対応するようにしている。	コロナ禍で家族の面会が出来ない時は、LINE電話を活用し家族と利用者との会話や、家族との連絡で要望をくみ取り運営に活用が出来ている。家族へ郵送書類の中に意見をいただく項目を設けている。また、終末期の家族は面会がいつでもできるので、その際に意見や要望を受けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の際に職員に意見を聞く時間をとっている。日頃から職員の意見や提案を聞けるように心がけている。	職員からの意見や要望は、日頃から出しやすい環境にある。利用者への介助の方法や、食事時の食器選定など提案を行い反映できることで、職員の精神面・身体面の支援が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来、給与基準を定め、人事管理を行ってきた処遇改善交付金も利用し今後のキャリアパスに向けてさらに給与規定を準備していきたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に当たっては何の制限も設けていない。現在、40代から80代の年齢層が働いておりそれぞれの希望や個性に合わせ勤務体制を組んでいる。	職員の中には、外国から受け入れた職員も勤務している。、他の職員の支援を受けて意欲的にサービスを行っている。年齢や国籍に関係なく、職員の特技や役割を発揮できる体制が出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部学習会を開いたり、日々のケア中でも互いに事没会や、ケア無いようにについて注意し合ったり話し合ったりしている。	利用者の居室への訪問の仕方・言葉使い・サービスの内容で「尊厳とは何か」と毎月の職員会議の際に学習を重ねている。日常のサービスの際に、職員間で適切な言葉使いができていないときは声掛けを行い修正を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しやすいように工夫している。ズームで研修参加したスタッフが研修内容を会議の場で発表し、皆で検討しケアに活かせるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に所属しそこの勉強会などに参加したり、他事業所の話、事例を参考にできるようにし向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、困っていること、要望等をお聞きしながら、信頼関係が築けるように努めている。コミュニケーションを絶えずとるようにし、小さなサインも見逃さないように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪された折にはゆっくり話をする機会を作るようにしているその際に困りごと、不安要望をお聞きするようにしている。面会禁止になってい時期にはテレビ電話などを活用して相談を受けるようにしていた。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけなるべく詳しくお話を聞き本人にとって最適な支援は何かを見極め、できるだけ本人家族の希望に添うように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器の片づけや洗濯物を畳んだりして、お話ししながら一緒に過ごす時間を作るようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はリビング、お部屋で一緒に過ごしていただいている。その際に職員が日頃の様子、会話の内容をお伝えし、情報を共有するようにしている。本人の状態の変化があった場合などは相談に乗っていただき今後の方針を考fえていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問された折には、一緒に過ごしていただくようにしている。機会があれば馴染みの場所にお連れしたりしている。	コロナ禍でなじみの場所の訪問などが出来ないが、ドライブに行き四季の移り変わりを見て楽しむこともある。大家さんからは、開設当初から自宅へ喫茶やピアノコンサートの招待が続いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合って洗濯物を干したり、たたんだり、食事の準備や下ごしらえをお手伝いしていただいている。できない方のお世話をされている方もおられる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたり他施設に移られたご家族からの相談があった場合には応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での関わりから個々の特徴、生活をとらえ希望、意向を把握するようにしている。言葉が聞き取れない方は表情や態度から読み取るようにしている。	日々の関わりの中で会話や表情、様子などから思いや意向を把握している。困難な場合には家族訪問時やLINE、書類などで確認したり、他の職員に尋ねたりすることもある。把握した事柄は朝の申し送り時に職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔話をしたりご家族からお話していただいたりしている。ご親戚、ご友人が訪問されたときにも聞き取りをし約垂立てている。入所前のサービス利用時も情報も事業所からいただくようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に、身体状況、精神面、活動したことを記載するようにしている。全職員が記録に目を通し情報を共有するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意向を確認し、主治医とも相談して作成している。また、希望、意向を直接表現できない方もおられるため、表情や態度から読み取るようにし職員全体で本人のニーズが何か話し合いながら作成している。	利用者・家族には日々の関わりの中で意向を把握している。月に一度のケア会議で職員や事業所看護師、訪問看護師、かかりつけ医等医療関係者から情報も得て、ケアマネジャーが介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、利用者の状況に応じて随時計画を変更している。介護計画書については家族訪問時や郵送にて確認を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に身体状況や日々の様子、食事量など会話した内容なども記録し全職員が目を通す様にしている。変化があった場合には話し合いを行い見直しに活かせるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望にはできるだけ添えるように努力している。入院された場合も家族に代わって見舞い、洗濯物を取りに行ったりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族のほかにボランティアとの交流、以前に利用していた施設スタッフとの交流も行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医を設け急変時にも柔軟に対応ができるようにしている。家族が希望される医療機関がある場合はそちらを受診している	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。定期往診や歯科については緊急性の高い場合には訪問している。薬局との連携もあり、誤薬に繋がらないように複数の職員で確認している。かかりつけ医の受診には職員が同行し、他科受診については家族が対応している。事業所看護師や訪問看護師等医療関係者と連携し情報の共有をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師に日々の状態をラインで報告している。体調不良や状態変化があった場合も都度報告し必要時は主治医に連絡し適切な受診、看護が受けられるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員が付き添って必要な情報提供を行うようにしている。また早期に退院できるように医師、看護師と情報交換を行い、退院に向けての受け入れ状態も整えるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時点で、ご本人、ご家族の意向をお聞きするようにしている。訪問されたときや機会あるごとに話し合いを行うようにしており、状態の変化があった場合は主治医も交えて今後の方針を考えていけるように支援している	今迄にも看取りの経験があり、入居時に指針に基づいて説明している。事業所看護師や訪問看護師、医師との連携も取れている。年に一度ケア会議の中で看取りについての研修もあり、ケアについて看護師や経験のある職員、管理者に相談できる体制がある。家族の宿泊については簡易ベッドや布団の準備がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同系列の訪問看護ステーションの看護師より初期対応の仕方等を学んでいる		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。地域の方々には運営推進会議等で機会あるごとに災害時の協力を依頼している	昨年に火災(屋)を想定した通報・避難訓練を利用者・職員で実施している。法人で火災や地震等の災害マニュアルを作成している。飲料水や缶詰、レトルト食品等を1週間分ほどを備蓄している。職員には避難経路や備蓄の保管場所等が周知されている。地域との協力体制はあるが、コロナ禍の為、地域住民の参加には至っていない。	有事に備え、スムーズな避難行動ができるよう、事業所ごとのマニュアル作成について検討する機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に丁寧な言葉使いをすることはもちろんその方に合った言葉で尊厳を傷つけないように配慮しながら対応している	職員は利用者の居室に入る際には必ず戸をノックし、居室内でのケアには、戸やカーテンを閉めるなどプライバシーに配慮している。トイレ誘導時も耳元で小さな声で声掛けしたり、日々の関わりの中でも言葉かけには注意している。記録はリビングの隅で行い、人目につきにくい場所に記録物をまとめて保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表現できるように簡単な言葉、方言でお声掛けしたり、お尋ねし、ご本人が決定しやすいように工夫している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、体調やじょうきょうにあわせて、起床、就寝、食事の時間なども変えている。体操やレクリエーションも無理強ひせず希望に沿って行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、外出時や行事の際にはお化粧したり、お好きは恰好ができるように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応えたり、季節に応じた食事作りを行っている。皆さんと一緒に準備をしたり、食器の片づけを行ったりしている	夕食は職員による手作りで他2食は外部委託しており、利用者が食べ易いように食器等を工夫し盛り付けている。コロナ前は週1回「調理レクリエーション」で、事業所敷地内の大家さん、職員、利用者で食事を作り、利用者は下ごしらえ等出来ることをしていた。敬老会ではビールを嗜む利用者や、少食の利用者には栄養価の高い補助食品や好みの物を提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	太りすぎ、痩せすぎることがないように食事量、内容水分量に気を配っている。個人に合わせ量を調節し、刻み食、トロミ食などを提供している。食事量の少ない方には栄養価の高いものを召し上がっていただくようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる範囲で毎食後に歯磨きうがいを行っている。義歯を使用している方は夜間は外してもらい消毒をしている。必要時は訪問歯科を利用している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄記録をつけ失敗の無いようにトイレ誘導、介助を行っている。訴えのある方はその都度、訴えの無い方は時間でトイレ誘導を行うようにしている	排泄パターンを把握し、自立度の高い利用者には、見守りながらパット等確認している。また、頻回に声掛けしトイレ誘導することで殆どの利用者がパットの使用枚数が減少している。時間帯によりポータブルトイレや紙おむつ等を使用し、自立に向けた支援を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため食事量に配慮し野菜類を多く提供するようにしている。排泄記録をつけ排便周期を把握し、水分補給、服薬支援を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日など基本的に決めているが、入浴嫌いな方もおられ、お声掛けしながら、本人の希望、体調に合わせて入浴できるように支援している	週2回午前中に入浴している。利用者の状況に応じて清拭や部分浴、ストレッチャー浴等で柔軟に対応している。入浴を拒まれる場合は声掛けを工夫したり、曜日を変えるなどしている。ボディソープ等事業所で準備しており、希望する物を使用している利用者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には在宅時の生活習慣に合わせるようにしている。午睡や就寝時間もこれまでの習慣に沿えるようにしている。寝具類もなれたものをご家族に持ってきていただいたりしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬ボックスを作っている。個人ファイルに処方箋を入れて服薬情報、容量を確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩をしたり音楽や歌を楽しめるようにしている。本人の希望や趣味を生かして過ごしていただいている。掃除や食事の準備、片づけ、洗濯なども一緒に楽しめるようにしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には希望があればいつでも外出の支援できるようにしている。	コロナ禍の中、可能な場合には桜や紅葉を見にドライブを楽しむこともある。事業所敷地内が広い為、散歩をしたり、同敷地内にある大家さんの庭の花を楽しんだりしている。車椅子の利用者もスロープから出て外気に触れる機会がある。利用者の買物は系列事業所を訪問した帰りに職員が支援することもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は外出時にご自身で支払いをして頂いたり、お金を出す支援を行っていたが、現在は買い物はスタッフが代行している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、ご自宅、友人宅に電話していただけるよう支援している。ご家族から電話があった場合はご本人に代わってお話していただいている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、リビングお部屋に飾ったりしている。季節感のあるものを皆さんで作って飾るようにしている	玄関には近隣から頂いた花が生けられ、木材が多く使われた室内は明るく清潔感がある。地中熱利用換気システムで事業所内の温度等を保っている。リビングの大きな窓から敷地内にある大家さんの庭を眺めることができ、季節の花は皆の楽しみになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	温かみのあるリビング作りに気を付けている。気の合う方同士が近くに座れるように座席も配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使用していた馴染みのタンス、家具等を持ってきていただいている。ご本人が過ごしやすいようにベッドの位置も工夫している	タンスやテレビ、カレンダーや家族写真等、使いやすいように配置したり、飾ったりしている。居室内も地中熱利用換気システムにより快適に保たれ、清潔感がある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にプレート等を貼りご本人が認識しやすいように工夫している		